



図書館で試験 考察力問う

総合型選抜 3

教育ルネサンス

No. 2677



総合型選抜を通し、「自分の頭で考える学生」を求めようとする大学がある。お茶の水女子大（東京）が2017年春入学の入試で導入した、総合型選抜「新フンポルト入試」には、試験会場が大学の「図書館」という選考がある。

「今までにない、新しい、そして理想の住まいとは何ですか。論拠を挙げながら自由に論じなさい」
22年度入学者の新フンポルト入試で、文系学科の受験生が2次選考で課せられたリポートのテーマだ。受験生は42万冊の蔵書がある付属図書館で、図書やデータベースを自由に利用し、2000字程度にまとめ

る。制限時間は6時間に及ぶ。この入試の制度設計から携わる文教育学部の安成英樹教授は、「知の宝庫である図書館で、正解のない問いをどう論じるか。自ら課題を発見し、考える力を測りたい」と狙いを語る。

「図書館入試」で合格した、文教育学部2年の北村美樹さん(20)は、源氏物語を大学の研究テーマに掲げている。高校2年の授業で、気になる登場人物を掘り下げた探究学習がきっかけだったといい、入試の面接でも話題にした。「多くの文献に触れながら文章に向き合う活動に好奇心が満たされた。図書館入試は、自分

付属図書館で行われるお茶の水女子大・文系学科の総合型選抜。受験生は図書を自由に参照できる(2018年10月) 同大提供



大阪大理学部の総合型選抜「研究奨励型」の2次選考では、学会で一般的な発表形式である「ポスター発表」を行う。受験生は、高校の自主研究をまとめた長辺約1対20の大判ポスターを試験会場に持参。その前で10分間、研究内容を説明し、その後に試験官の質問に答える。同学部4年の

は、高校の部活動で行った、カスミサンショウウオの新たな生息地を発見する研究を説明し、合格した。高校時代に日本動物学会や日本水産学会などで研究成果をポスター発表した経験があったという。

は「受験を意識した研究ではなかったが、結果的に部活動の体験が合格につながった」と話す。
同大理学研究科博士前期課程の
も、高校での探究学習が、総合型選抜での合格につながった一人だ。

探究学習では、人工イクラ膜を植物栽培に応用する研究を行ったが、当初はうまくいかなかった。授業後も、試行錯誤を重ねて成果をまとめたところ、日本学生科学賞の京都府審査会で最優秀賞を受賞した。

さらに成果を広めようと、日本化学会の研究発表イベントの実行委員長に交じってポスター発表も行った。はもらった意見は、2次選考の発表方法にも反映させた」と語る。
理学部の入試広報に携わる
「研究レベルの高さを見ているわけではない。どれだけ自分の頭で考えて研究に向き合い、その結果を相手に説明できるか。研究への熱意と研究者としての資質を評価している」と強調した。